



火山活動には噴火がありますが、それに伴う地震、海底噴火であれば津波、火山の爆発によって山が崩れて津波が起きた例として、1792年 島原の雲仙岳の噴火があり、大地震が起きて眉山が崩壊して山塊が海に落ち、それによって津波が起きて対岸の村を襲い死者1万5千人という被害者をだし「島原大変肥後迷惑」と言われた。

プレ-ト境界地震や活断層地震は観測しているも、今回の東日本大震災のように予測が困難な事例が多いが、火山活動はある程度のマグマ活動があり予兆があるので、観測所や上図のような方法で常時観測している。

1974年6月、火山噴火予知連絡会が設置され、火山を研究する学者、専門家によって構成され、その事務局は気象庁地震火山部にある。

この連絡会の役目は、火山に関する研究や業務を行っている機関が、お互いに情報交換や研究促進し、火山噴火に関し総合判断を行い火山情報の質の向上をはかっている。

具体的には国内の火山で常時観測している火山が20あり、その観測データをはじめ、全国の火山に関する観測データが、年3回の定例会で討議される。

全国20ヶ所の常時観測で、福島県では吾妻山、安達太良山、磐梯山の三山がその対象となっている。

このうち生命、身体に危険を及ぼす火山活動には緊急火山情報を発令するが、その危険性のある北海道の有珠山、三宅島の雄山は特に厳重に観測を継続している。

気象庁火山情報

緊急火山情報、	生命、身体に危険を及ぼす火山活動
臨時火山情報、	火山活動に異常が発生、注意が必要
火山観測情報、	を発表の後、更に詳しい情報
定期火山情報、	火山活動の状況を定期的に発表